

(白) 示 地 図 10a

後漢書 34-1502P

古代朝鮮 34 ③ 326-1/2

表 35P

1.197P

武 帝 7代 ③ 190

東 漢 819P

③ 1203P-1/4

前 190
前 108
82

第十五章

衛氏朝鮮以後の朝鮮半島の歴史

国創業(前九〇年頃)から

そのれでさ、ここに、衛氏朝鮮以降、
倭国の女王卑彌呼が、帯方郡を経由して、魏国の朝廷
へ朝献した景初三年(二三九)に至るまでの

朝鮮半島の歴史について、そのあらまゝを見て
おくことにしよう。(以下、巻頭の第2表参照)

衛氏朝鮮国は、十余年間存続したものである。
前二〇九年、前漢第七代の武帝は、衛氏朝

鮮国を討ち滅ぼした。
その前、前二〇八年、漢は(旧)衛氏朝鮮国の地に
楽浪・玄菟・臨屯・真番の四郡をおいたとい

う。
この四郡の位置については、西北朝鮮から
元山湾(東朝鮮湾)地方に限定する説と、朝

鮮半島のほぼ全域におよぶとする説があつて、
定かでない。

新 々 の 題 目
国 史

1198^p

古史代史 204^p

基本地図 10^p 古史代史 204^p
通商は 古史代史 36^p
報告の西南 古史代史 203^p

●その後まもない前八二年に、臨屯・真番両郡が廃止され、その一部が兼浪・玄菟二郡に吸収された。この時、玄菟の郡治が高句麗（鴨綠江中流域北岸の通溝）へ移された。さらに前七五年、玄菟郡が遼東郡に吸収された。

とリウ。ヘ「古代朝鮮」井上秀雄、日本放送協会、三四〜三六頁。「韓国古代史」(上)李丙圭、六興出版、一八九〜二〇四頁参照。

政治 不ふ 治い 小林 561

東洋史 751^p

東洋史 368^p

高句麗

前七五年に事実上玄菟郡は崩壊し、遼東郡

内に名目のみの玄菟城へ現在の中国遼寧省老

城・興京方面に残された。

こうした時、鴨緑江中流域が、漢の郡県支

配から脱した。こうして、のちの高句麗建

国の素地が作られていった。

●現存する最古の朝鮮の歴史書である『三

国史記』によると、高句麗の建国は前三七年

にありという。また、高句麗の建国神話によ

れば、始祖東明王は扶余(満州あたり)の王

族の出たという。(朱蒙の別名)

●『漢書』王莽伝によれば、西暦

九年王莽は、漢(前漢)を倒して新朝を建て

た。四方に使節を送り、この時高句麗に

外臣の印綬を与え、その独立を承認した。

●西暦十二年、王莽は匈奴(前三世紀か

ら後五世紀にわたって漢族を脅かした北方の

遊牧民族)を攻撃するよう、出兵を、高句麗

に要求した。

王莽の要求に応じなかった。この出兵を拒否し

王莽は、東明王を斬った。

反逆の擧 497 257
447 207
25 神代元
新羅 91
古代朝鮮 38
19 19
38 13

1,200⁷ 反乱

布 1213³ 同文
云 748⁷ 古代朝鮮 38⁷
云 748⁷ 古代朝鮮 38⁷

●そこで王莽は、高句麗を討ち、東明王を斬った。
●すると、この地方の諸族（扶余や濊貊）が
いっせいに反乱を起し、さらに南方の異民族
まで反乱を起した。（「古代朝鮮」井
上秀雄、日本放送出版協会、三七―三八頁参照）

●新 後漢の懐柔策
後漢は、軍備を縮小し、植民地政策を変更した。
西暦二五年に漢を復活した。
（「古代朝鮮」38頁）

●西暦三〇年、樂浪郡の中国人系在地豪族王
調が反乱を起し、半年以上も樂浪郡を占拠
した。謀反

●後漢は、この反乱を契機に、地方豪族を県
侯とし、一部の郡県を侯国として、その内政
の自治を認めた。これは後漢の政策だっ
たが、朝鮮諸族の発展を促すものであった。
●ともあれ後漢時代は、朝鮮半島の支配にほ
んと関心を示さず、樂浪郡の組織も在地の
豪族を主体とするものであった。

古代朝鮮 40⁷ 24⁷ 11⁷ 有
云 198⁷
云 594⁷

$$\begin{array}{r} 55 \quad 31 \\ 49 \quad 25 \\ \hline 25 \quad 1 \text{ 寸} \\ \hline 24 \quad 24 \end{array}$$

な、お、建武（二五〇五）は、
垂仁天皇（前二九〇後七〇）の御代の半は頃
にあたる。（第一表参照）
にあらる。リウどうたいしゅさいとう。
・表示するところ、途東の太守祭形の声は、萬里のかなたの倭王の耳にも届い

「後漢書」序文
②-1504上末、
③ 830

この頃 6行

前頁 9行

守りとは

1,202^{P-1/2}

後漢書(序文)③-1504^P

④ 781
後漢書倭伝57^P

⑤ 781^{P-1/3, 3/3}
この頃 20行

⑥ 781^{P-1/3, 3/3}

た...そこて

の王(垂仁天皇)

箕子統治下にある北九州・山口地方・朝鮮半島南端一帯の百余国の内の極南界に

後国に位置する倭国が、建武(二五〇五五)の初め頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

た。この頃、遼東郡へ使者を送り、朝貢され

1.202^P-2/2

94

(一〇七) 条に
 安帝の永初元年(一〇七)
 升等、生口百六十人を献じ、請見を願う
 とある。
 先帝(垂仁天皇)にならって、景行天皇も
 また後漢へ朝献されたのであろう。
 (既述)
 このように、後漢の東夷支配の根拠地は楽
 浪郡から遼東郡へ、ハリソいたにもかかわらず、
 濊・後・韓などが遼東郡、首都雒陽に朝貢
 を經由して、
 したと、いい、前漢から新にかけての武
 力制圧よりも、後漢の懷柔政策の方が、一世
 紀の段階では成果をあげ、東方諸国と後漢と
 の対立もなかった。(「古代朝鮮」井上秀雄
 日本放送出版協会、三九頁参照)

*

ゆうしやう 小村 353
1191 河内

1191 不明

1191 1204
204年頃
〜313年

扶余は遼東郡について高句麗と戦った。
1,203-1/3

「古代朝鮮」39

1257

極東地域の混迷

〔後漢の〕

ところが二世紀にはいると朝鮮半島では

高句麗と扶余とが遼東郡と対立するよう

になった。

一〇五年、高句麗は遼東郡の六県を一時奪

ったが、撃退された。

一一一年には扶余が楽浪を攻めた。

一一八年には高句麗が玄菟・楽浪を攻め

た。

一一一二年には、高句麗が馬韓・濊貊諸

種族とともに遼東郡の玄菟城を攻撃した。

のとき、扶余は遼東郡について高句麗などと

戦った。

一三二年、高句麗が遼東郡の西安平県（現

在の遼寧省安東市付近）で、楽浪太守の妻子

を捕え、帯方県令を殺害した。

一六七年、扶余王夫台は二万の大軍を送つ

て玄菟を襲ったが、失敗した。

一六八年、鮮卑族や濊貊族が幽州・并州（現

582

851

1203-2/4
844

後漢の王朝は
積極的ではなかった。

大カンワ 236
コウ
大カンワ 695
大カンワ 433
大カンワ 354

1191 玄菟城は遼東郡の
1204 楽浪は遼東郡に属した。
436

古代朝鮮 38°~39°
 ①120°2分 東経
 ②119°3分 東経
 1,203°-2/3

古代朝鮮 40°
 44°
 ルビ有る

在の河北・山西両省北部・内蒙古南部に侵入した
 高句麗は

一六九年、遼東將軍橋玄の支援を得て玄菟太守耿臨によって高句麗は破れ再び遼東郡

に従属することになった。
 このように二世紀は、扶余・高句麗が遼東

平野に進出をはかった時期である。
 後漢王朝自身は積極的な東方政策を持って

いなかったため、遼東郡太守を中心とする郡県勢力と、扶余と、高句麗との三

者による遼東平原争奪期ともいえる。
 * なお、楽浪・玄菟両郡は、名目的に存在し

ているが、実質的には遼東郡に吸収されてい

た。
 古代朝鮮と井上秀雄、日本放送出版

三四四頁

*

から
辛くも 463
ヤツとこのこと

「おいていかに」
2次頁

1,203 P-3/3

④83% 観文後58

でも

46 P

方

一方、東海の島（北九州・山口地方）

でも支配権をめぐる7の激しい戦いが、数十

年の長きにわたる、延々と続いていた。

● 後漢書倭伝には、

「桓・靈の間、倭国大いに乱れ、更々相攻

伐し、恒年主無し」

と述べている。（一四七―一八八頃）

桓・靈の間（一四七―一八八頃）北九州一帯

で、倭国と箕子率の国との壮絶な

激闘（いわゆる倭国大乱）が展開されてい

たのであろう。

だがついに辛くも倭国大乱に勝利したのは

倭国の方だった。たろうと推察される。（第

十章成務天皇へ倭国大乱の項において既述

*

古代判官 43^未 郡吏 44^小 1213^小 196^小

下級郡吏であつた公孫度は、玄菟郡太守公孫
 域に見出され、やがて遼東郡太守となつた。
 公孫度は、高句麗や烏丸を討ち、勢力を振
 大していった。次第に
 度は、二〇五年ころ、樂浪郡の屯有県
 へ現在の黄河北道黄州方面以南を帶方郡とし
 朝鮮半島南部の韓族を支配した。
 もつとも、この時期の朝鮮半島南部支配の
 ついては、中国本土の王朝が直接行なつていたの
 でないから、詳細な記録が残つてゐるわけでは
 ない。（「古代朝鮮」井上秀雄、日本放送
 出版協会、四三〜四六頁参照）
 ともあれ、
 ①後漢が帶方郡を設けたのはなく、
 後漢末の遼東太守公孫度が樂浪郡を領有
 してその南半部を割き、帶方郡を分置した
 ②帶方郡は、二〇五年頃と三三三年まで
 の約一〇年間存続した（東洋史新編、帯方郡
 という。（「玄緯苑」）（帶方郡）等参照）

タリ 曲1216P 1~5分
同 349
中14年でもはいた

1,205P-1/2

は4ハ 1779P
220年 東漢 150
古代 46
208年 東漢 395
中1214P

あお 元 291P
覆 1518P

中1217-2/2
9分

魏国、**楽浪**、**帯方**を奪回

暗雲が大陸全土を覆いつくした後漢終末期

中国史上に名高い二〇八年の赤壁の戦いを経て魏・呉・蜀の鼎立時代となつた。

つた。

中国の北部に魏、南に呉、西に蜀があり互いに睨みあつて鼎状態の均衡を保った。

(既述)

(三足器)

漢王朝を廃滅したあとも、この三國は互に

三国のなかでも中国北部に位置する魏は

二〇九年、曹操の長子曹丕は、後漢の献帝を受け、魏王朝を立て、都を洛阳に置いた。

(2)翌年の二一年、劉備は成都で帝位につき、国号を漢(通称蜀)とした。

(3)やや遅れて二二九年、孫権も帝位につき、建業(南京)を都として、国号を吳と定め

た。

(「東洋史辞典」創元新社へ三國時

および

中1206P
20分

改行

地理的に見て、遼東郡や朝鮮半島に最も近い。

とはいえ魏は蜀と鼎立していたので、東方諸国に對す

関心が薄かった。

ここに、吳帝孫權は遼東の公孫氏と国交を開

き、魏の後方から脅やかーにかかった。の明帝(在位二六、二九

背後を突かれてはたまらない。

公孫氏と吳との謀略を知った魏は、公孫氏

の両属政策を咎め、厳しく攻撃した。

二三年十二月、公孫度の子公孫淵が立った。

公孫淵は、吳の使者を斬って、魏への忠誠

を示した。遼東の禁中からの使の意(勅使)

このとき、吳の中使秦旦・張群など

六十余人が高句麗へのかれ、吳帝の詔勅を高

句麗の東川王に伝えた。その中に、遼東地方を

与えてよ、との言葉があったので、東川王は

吳国と同盟を結ぶことにした。の東川王

衛を斬って、その首を幽州(現在の河北省と

その東北部一帯の地)に送った。

このような高句麗の對吳政策の急変

は、翌二二七年からは、幽州刺史(長

官)母丘侯の東方進出と関連して、いるのかも

改行 41P 三三三 289P

ゆうゆう 小林 353

改行 40P 289P

1. 205P-3/2 古代朝鮮 46

とが 永 158P

とが 永 158P 5/203-3/4

同文 350

古代朝鮮 41P 289P

1152

509

コクヨ ケー20 20x20 古代朝鮮 41P 289P (長官)とある。大宅。魏へ唐では州の施政官

改行 40P 289P 同文 351 新文(1)-342P

441

謀(はかりごと) 定約 計略 策略 手づから

新文(1)-342 同文 魏へ唐では州の施政官

古代朝鮮47
3行 吳王とある
(吳帝74年?)

第二章へ瀋洲の項における概要を既述

③352 上の記 勅令 152
天子の命令

のかが 道 174
おちい 305
1,207

三日月(年)1-108
平太おひア公孫淵を包囲した、と云
とこが不明?

このとき 前 119
古代朝鮮
417行

やがて、遼東への総攻撃が開始された。
仲達の見た通り、食糧不足から士気が極度に落
ちていた公孫淵軍は、もはや魏軍の敵でな
かった。遼東の
公孫淵は、人質を出す条件で講和を申し入
れた。しかし仲達は、
降伏するか、決戦して死ぬかのどちらか
だ。人質など不要し
と、はねつけた。
城は陥り、道水奔った公孫淵父子は捕えら
れて斬られた。
仲達は、城内の大官・武官二千余人と、十
五歳以上の男子七千余人を殺して、みせしめ
とした。
遼東・楽浪・帯方・玄菟の四郡は
魏の支配下に入った。
魏の勅令は朝鮮半島に及ぶように
なった。
それは、二三八年(倭国)の女王卑彌呼が魏国

222年10月
高麗人の出兵
に反対する
理由は

1,208^p - 1/2

こと

へ朝貢した二二三年の(前年)八月のことであ
った。(「三国志物語」寺尾善雄、二一九
二二〇頁。「古代朝鮮」井上秀雄、日本放送
出版協会四六〇四七頁参照)

米

8A
由12/17
1/2
所
古代朝鮮
47

かに
頼

公理度が第1部とに ⑤ 1204^P
205年ころ

313
205
108年

1208^{P-2/2}

⑤ 1217^Pと同日

⑤ 1403^{P 3/3} 「帯元」の名称は 後漢代には無かった。
計らする名 (後漢末に帯元部の南半部は) 元部
1770 (公孫康度が、--- 帯元部とに、 帯元部
1348^P

風社、二一八し二二〇頁参照)
四六し四七頁。『三国志物語』寺尾善雄、光
へ『古代朝鮮』井上秀雄、日本放送出版協会
を側面から圧迫しようとする戦略でもあった
「一、一、一、東方諸民族との連携を通じて、呉国
出兵に対応するものではあったが、さらに、
このような魏の政策は、当面、高句麗への
や倭国(邪馬台国)に対して積極的に政策を
とるようになる。
にいた魏は、これより後、南朝鮮の韓族諸国
を、計らずも復活した。
そうして、日楽浪、日帯方の支配権を手中
長らく放置していた朝鮮半島中部以北の領有
権を、

とうとうたけで討たずも魏は、後漢以来
(西暦三〇年以降)

*

⑤ 1200^P
115
西暦305

握 1688^年 魏の1里=434m
 0.434km x 400里 = 173.6km
 傷 425^年 晋王芳 (せいおうほう) 三上144
 潜む 1868^年 勅諭 1461^年 命 1.209^年
 三上(傳文)I-95「疾」とある
 許 2193^年 通次 道中 昭々云 1095^年
 三上(傳文)I-94「疾」とある
 三上(傳文)I-110上

①313-23

明帝崩・曹芳即位
 688^年
 2009^年
 三上(傳文)I-102
 1300^年

仲達は帰国の途についたが、その途中で詔
 を賜わり、首都洛陽に凱旋せず、
 前任地の長安へ赴くことになった。

ところが仲達は、長安への途次の白屋で、
 洛陽へ参れ。朕の許へ出頭せよ。

という明帝の急ぎの詔書を受け取った。
 いかにも何と、三日間に五回もである。

仲達は、洛陽に潜ませていた密偵からの知
 報を受けて、また仲達は、明帝が疾の床に就いているという状況を

は慌てざるを得ない。このような急ぎの勅諭とあって
 へ帝の容体が急変したのである。

白屋から洛陽までの四百余里の道のりを
 仲達はほんの一日だけで都へ突っ走った。

明帝は、仲達の手を握りしめ、傍らの齊王芳を
 見やりながら、

「あの子を頼む」

三上(傳文)I-114
 110^年

①144
 洛陽南宮を修るに当、二ノのカレン
 があった(後述)

茶 1-94^p (110^p) 正月 17
 123^p (89^p) (114^p)
 1344^p の三層の

三口史(本)
①-110^p

④ 1313⁹ 大立存更時 前頁 6行 正 1,211^P
3/3 12 小立存更時 記 山口大茶 1-114 上注

曹操

文帝 (一)
 彰 (一)
 曹桂 (一)
 明帝
 芳
 詢

の教育係といた。太傳は政治に關与しないのだ
 から、政治上の實権は己の手中に入る」と曹爽は
 目論んだのである。
 「いまにボロを出す
 だらうよ」
 で、
 仲達はそう言って、この棚上げにきり立
 つ息子の司馬師、司馬昭、司馬懿の父等
 国志物語、寺尾善雄、光風社、二二〇、二二
 一頁。「三国志」(I)世界古典文学全集、筑摩
 書房、一一〇頁、一一四、五頁、二七六頁、
 三国志(一)汲古書院、九四頁下一八行、二行、
 二九頁上三行の(疾
 他参照)
 *
 ※なお、
 「宮中の事からは秘密に属するから、曹芳
 および曹詢の経歴は詳らかでないものぐ
 魏氏春秋によれば、任城王曹楷の子
 である」
 という。(「三国志」(I)世界古典文学全集、
 筑摩書房、一一四頁参照)